

第367号 (平成30年6月1日(金)発行)

発行所  
京都女子大学 宗教部  
京都市東山区今熊野北日吉町35  
電話 075 (531) 7074

# 華利陀茶



## ブライインド・パッション 仏教学非常勤講師 清基 秀紀

### 百八つ

テレビのバラエティ番組で仏教が語られることがある。興味本位で話される仏教を聞いてみると、誤解を生むのではないかと心配になる。

仏教にくわしいという漫才師の講演では、人間の煩惱がなぜ百八つなのか解説されていた。

人生の苦には四苦八苦とよばれるものがある。その生老病死の四苦を掛けると四×九で三十六。八苦は八×九で七十二。合計すると百八つになる。

そうだとすると、テレビのなかでは、なるほどと感心される。そんなふうの説明されると、仏教もわかりやすくて楽しいと言われている。

ちよつと待てよ。なぜ苦が九になるんだ。暴走族の夜露死苦じゃあるまいし、語呂合わせが仏教の教えではない。

仏教の講義の時間、テレビで語られるそのような話を仏教の教えだと思わないでほしいと学生たちと話した時、ふと黒板に書かれた108という数字が目にとまった。

ところで、煩惱はなぜ百八つだか知っていますか、と問いかける。学生は真剣に聞く。

実は昔はちよつと百八つだっただけです。それが消費税の8%が加わって百

八つになったんです。つまり、いつもの冗談が出てしまった。漫才師の四苦八苦説とあまり変わらない。反省する。

「高僧和讃」曇鸞大師 第一首  
浄土にふかく帰せしめき  
仙経ながくやきすてて

八つになったんです。

煩惱のやっかいな点  
は、それが煩惱だと気づかないことなのである。

「人間の煩惱にはどのようなものがあるか」と問題を出したことがあ

る。貪(むさぼり)・瞋(いらだち)・痴(おろかさ)などの答えを期待していたが、ある学生はすっかり忘れてしまったのか、苦し紛れに書いた答えは「子煩悩」であった。

あの家のお父さんは子煩悩だと、ふつうは良い意味で使うが、それを「煩惱」と表現するところに妙味がある。

よい大学に入って、よい会社に就職して、よい結婚をして、よい人生を送る。そのためには一生懸命に勉強しなさい、勉強は自分のためですよと親は子供に言う。

しかし、よい人生とは誰にとってよい人生なのだろうか。よく考えれば、子供のためと思ってやっていることも、親の考え

た幸福の押しつけにすぎず、必ずしも子供の幸せにはなっていないことが

ある。煩惱のやっかいな点は、それが煩惱だと気づかないことなのである。

ブライインド・パッション  
経典など仏教の文献を英語に翻訳する仕事に

関わっていると、教えの要となる重要な語句をどのように英訳するか苦労することになる。

煩悩を和英辞典で調べると、worldly desireであるとか、earthly passionとかの訳が出てくる。世俗的な欲望、この世の感情や愛着などの意味だが、そのように訳してしまうと、煩悩の本質を見失ってしまう。単なる欲望ではない。

煩悩というものは、欲望として意識されるもの

として意識されるものというよりは、私たちの心に普通に存在する基本的な感情なのである。人間として生きているという

なかに根源的に存在する感情といつてもよい。そして、それはなかなか意識されないものである。

その重要な意味を伝える訳として、blind passionという訳を使うようになった。ブライインド・パッションのブライインドとは、目が不自由であること

に使われるが、子煩悩のように、我が子かわいさのあまり周りが見えて

いない状態ということではなく、ここでは「意識されない、気付かない」という意味で使われる。自分のなかの意識されない感情というわけである。

あれが欲しい、これが欲しいという欲ならば意識することは出来るし、それをがまんすることも

できる。しかし、私たちの心のなかには、私たちが気付かない煩悩が潜んでいる。

積尊のさとり  
釈尊はインドの小国の王子として生まれ、何ひとつ不自由のない暮らしの中で不安をいだいて

いた。人間はいつかは年老い、病にかかり、やがては死んでいく。その現実を見ずに今の生を当たり前のように考えて日々を過ごす生活に疑問を感じて

いたのだ。この不安はどこから来るのだろうか。そしてその不安はどうすれば解決できるのだろうか。積尊は自分自身の心のなかを鋭く見つめ、それが煩惱

によるものだと気付いた。今が永遠に続いて欲しいと思っても、すべては変化し永遠なものは何ひとつない。にもかかわらず、私たちは変わらない

ことを無意識に望んでいる。失ったもの、変化したものを悲しみ、いつまでも執着が消えないことがある。いくら悲しんでも元へは戻らないのに。

その執着心は煩惱である。そのような煩惱をなくすことがさとりである。そうやって執着心からはなれ精神の自由をえることが出来れば心の平和がえられるのだ。

親鸞の煩悩  
その煩悩を鋭く見つめたのが親鸞である。親鸞は九歳で比叡山のほり二十年にわたって修行を続けた。定められた修行を完成し、ある程度の達成感がえられるは

ずだったのに、かえって不安は大きくなった。他の人なら、その程度の感情はゆるめたかもしれない。しかし親鸞にとつては、心に潜む煩悩こそが問題だった。そして自分こそが煩惱に充ちた存在だと絶望し比叡山をおりた。

その親鸞が出会ったのが阿彌陀仏の本願であった。煩悩のゆくえ  
大晦日になると除夜の

病、脳卒中などは、年齢リスクを高める飲酒の減少により、予防可能であるという科学的根拠が出ています。

日野原先生は「生涯現役」、まさに健康長寿を全うされた方でした。

皆さんもこの機会に、QOL(生活の質)の高い健康長寿を目指して、ご自分の生活習慣を見直し改善してみませんか？

一気に理想的なことをすると、三日坊主で終わってしまいます。無理せず長続きできる行動目標、例えば、朝ご飯を一口でも食べる、野菜を一品多く食べる、よく噛む、ど

か食いたくない、間食・夜食の量(回数)を減らす、10分歩く、階段を使うなど、ちよつとした目標を立てて、記録し、できたかどうかをチェックするのが効果的です。

親鸞聖人は「教行信証」の中で、「今の時の道俗、おのれが分を思量せよ」と述べている。「今の時の道俗」とは末法の時代の僧侶・在俗の者、つまり、私たちのことである。濁世に生きる私たちに、自分自身のことをよくよく振り返ってみるよう

に促している。居士林での研修は親鸞聖人が修行された比叡山において、自己と向き合ういい機会になるに違いない。

今年も居士林での一泊研修が六月二日から一泊二日の予定で実施される。私も一緒に一泊二日の研修に出かけた経験がある。比叡山は東塔、西塔、横川の三つのエリアに分けられるが、居士林は西塔の中にある。西塔には常行堂と法華堂があり、二つのお堂が渡り廊下で結ばれていることから、にない堂とも称されている。

降りると、正面には釈迦堂がある。山道は少し歩いて行くと伝教大師最澄の廟所である浄土院もある。

| 日  | 曜日 | 講時 | 対象学生 | 担当 | 講師他   |
|----|----|----|------|----|-------|
| 4  | 月  | 1  | 造形1  | 井上 | 普賢 保之 |
|    |    | 2  | 食物3  | 普賢 | 志津田一彦 |
|    |    | 4  | 史学3B | 東光 | 藤原 美沙 |
| 5  | 火  | 1  | 福祉1  | 西  | 市川ひろみ |
|    |    | 4  | 英文3A | 黒田 | ビデオ   |
|    |    | 1  | 法学3  | 普賢 | 桜沢 隆哉 |
| 6  | 水  | 3  | 国文3A | 森田 | ビデオ   |
|    |    | 1  | 現社3C | 森田 | ビデオ   |
|    |    | 4  | 現社3A | 那須 | ビデオ   |
| 7  | 木  | 2  | 教育1  | 三浦 | 安田 章紀 |
|    |    | 4  | 現社1C | 那須 | 福永 俊哉 |
|    |    | 1  | 現社1A | 中西 | 佐伯 恵子 |
| 11 | 月  | 2  | 史学1A | 野村 | 前川 正実 |
|    |    | 4  | 児童1  | 黒田 | 前崎 信也 |
|    |    | 1  | 教育3  | 森田 | ビデオ   |
| 12 | 火  | 3  | 造形3  | 森田 | ビデオ   |
|    |    | 4  | 英文3B | 清基 | ビデオ   |
|    |    | 1  | 心音1  | 森田 | 橋本 久雄 |
| 13 | 水  | 2  | 福祉3  | 黒田 | ビデオ   |
|    |    | 1  | 現社3D | 東光 | ビデオ   |
|    |    | 4  | 現社3B | 藤井 | ビデオ   |
| 14 | 木  | 1  | 英文1A | 秋本 | 金 情浩  |
|    |    | 2  | 心音3  | 塚本 | ビデオ   |
|    |    | 1  | 現社1B | 野村 | 矢野 真  |
| 18 | 月  | 3  | 国文1A | 普賢 | 小山 順子 |
|    |    | 4  | 史学3A | 竹本 | ビデオ   |
|    |    | 1  | 法学1  | 藤井 | 瓜生 淑子 |
| 20 | 水  | 3  | 国文3B | 普賢 | ビデオ   |
|    |    | 1  | 食物1  | 塚本 | 藤井 隆道 |
|    |    | 2  | 史学1B | 上野 | 江口 聡  |
| 25 | 月  | 3  | 国文1B | 黒田 | 表 真美  |
|    |    | 1  | 英文1B | 三浦 | 横村 久子 |
|    |    | 3  | 児童3  | 秋本 | ビデオ   |
| 29 | 金  | 4  | 現社1D | 安田 | 竹内 康弘 |

※3回生…親鸞聖人ビデオ(6月)

### 食物栄養学科からの便り

#### ③食育と健康長寿

習慣病を予防し、健康寿命を延ばすことが重要な

命を延ばすことが重要な命を延ばすことが重要な命を延ばすことが重要な

命を延ばすことが重要な命を延ばすことが重要な命を延ばすことが重要な

健康寿命(健康で自立した生活を送れる期間)は、平均寿命より男性9.0歳、女性12.4歳と短いので、超少子高齢社会の現在、すべての国民が自己管理により、生活

病、脳卒中などは、年齢リスクを高める飲酒の減少により、予防可能であるという科学的根拠が出ています。

日野原先生は「生涯現役」、まさに健康長寿を全うされた方でした。

皆さんもこの機会に、QOL(生活の質)の高い健康長寿を目指して、ご自分の生活習慣を見直し改善してみませんか？

一気に理想的なことをすると、三日坊主で終わってしまいます。無理せず長続きできる行動目標、例えば、朝ご飯を一口でも食べる、野菜を一品多く食べる、よく噛む、ど

か食いたくない、間食・夜食の量(回数)を減らす、10分歩く、階段を使うなど、ちよつとした目標を立てて、記録し、できたかどうかをチェックする

のが効果的です。

親鸞聖人は「教行信証」の中で、「今の時の道俗、おのれが分を思量せよ」と述べている。「今の時の道俗」とは末法の時代の僧侶・在俗の者、つまり、私たちのことである。濁世に生きる私たちに、自分自身のことをよくよく振り返ってみるよう

に促している。居士林での研修は親鸞聖人が修行された比叡山において、自己と向き合ういい機会になるに違いない。

今年も居士林での一泊研修が六月二日から一泊二日の予定で実施される。私も一緒に一泊二日の研修に出かけた経験がある。比叡山は東塔、西塔、横川の三つのエリアに分けられるが、居士林は西塔の中にある。西塔には常行堂と法華堂があり、二つのお堂が渡り廊下で結ばれていることから、にない堂とも称されている。

降りると、正面には釈迦堂がある。山道は少し歩いて行くと伝教大師最澄の廟所である浄土院もある。

居士林では講義や座禅の練習をし、食事は近くの食堂まで合掌したまま歩いて行く。食事も含めて全てが修行である。食事中、お喋りはもちろん禁止。きちんと正座して音を立てないよう注意して食べ、食後はお茶で洗鉢する。日常の生活に慣

れている我々にとってはちよつと辛い食事かも知れない。居士林に行く度に、自分の日常生活がいかに乱れているかということを感じる。美食に過食、そして五感を鈍磨させるような生活。そんな自己に気づかされる場が居士林での研修である。

親鸞聖人は「教行信証」の中で、「今の時の道俗、おのれが分を思量せよ」と述べている。「今の時の道俗」とは末法の時代の僧侶・在俗の者、つまり、私たちのことである。濁世に生きる私たちに、自分自身のことをよくよく振り返ってみるよう

に促している。居士林での研修は親鸞聖人が修行された比叡山において、自己と向き合ういい機会になるに違いない。

今年も居士林での一泊研修が六月二日から一泊二日の予定で実施される。私も一緒に一泊二日の研修に出かけた経験がある。比叡山は東塔、西塔、横川の三つのエリアに分けられるが、居士林は西塔の中にある。西塔には常行堂と法華堂があり、二つのお堂が渡り廊下で結ばれていることから、にない堂とも称されている。

降りると、正面には釈迦堂がある。山道は少し歩いて行くと伝教大師最澄の廟所である浄土院もある。

居士林では講義や座禅の練習をし、食事は近くの食堂まで合掌したまま歩いて行く。食事も含めて全てが修行である。食事中、お喋りはもちろん禁止。きちんと正座して音を立てないよう注意して食べ、食後はお茶で洗鉢する。日常の生活に慣

れている我々にとってはちよつと辛い食事かも知れない。居士林に行く度に、自分の日常生活がいかに乱れているかということを感じる。美食に過食、そして五感を鈍磨させるような生活。そんな自己に気づかされる場が居士林での研修である。

親鸞聖人は「教行信証」の中で、「今の時の道俗、おのれが分を思量せよ」と述べている。「今の時の道俗」とは末法の時代の僧侶・在俗の者、つまり、私たちのことである。濁世に生きる私たちに、自分自身のことをよくよく振り返ってみるよう

に促している。居士林での研修は親鸞聖人が修行された比叡山において、自己と向き合ういい機会になるに違いない。

今年も居士林での一泊研修が六月二日から一泊二日の予定で実施される。私も一緒に一泊二日の研修に出かけた経験がある。比叡山は東塔、西塔、横川の三つのエリアに分けられるが、居士林は西塔の中にある。西塔には常行堂と法華堂があり、二つのお堂が渡り廊下で結ばれていることから、にない堂とも称されている。

降りると、正面には釈迦堂がある。山道は少し歩いて行くと伝教大師最澄の廟所である浄土院もある。



# 花と詩人

文学部教授 下村 伸子

今年の春は桜の開花が早く、三月末には暦月の二度目の満月という意味でのブルームーンと桜の満開が重なり、優美な夜景を鑑賞された方も多いことと思います。俳人渡辺水巴の一句「てのひらに落花とまらぬ月夜かな」を文字通りに体験された方もあるでしょう。

エミリー・ディキンソンと花

十九世紀アメリカの詩人エミリー・ディキンソン(一八三〇—一八八六)は、生存中自らの詩集を出版することができませんでした。日本では「秋の銀竜草」という名前ですが、「銀竜草」(別名ユウレイタケ)によく似ていることから「銀竜草もどき」とも名付けられています。花が下向きに咲き、頭を垂れている感じがです。花と茎の半透明の白さからも幽霊と言われると頷いてしまいます。

に分類され、北米や日本にも自生するこの花は、葉緑素を持たないため全体が白く、アメリカでは「氷の花、幽霊の花、屍体の花」などとも呼ばれています。日本では「秋の銀竜草」という名前ですが、「銀竜草」(別名ユウレイタケ)によく似ていることから「銀竜草もどき」とも名付けられています。

だけで、その一篇は、日本語に訳すと「アキノギンリョウソウのように白く／＼ベニバナサワギキョウのように赤く／＼正午の月のように信じられない／＼二月の時間」(フランクリン番号一一九三番)という一八七一年頃に書かれた四行の詩です。詩の二行目の花「ベニバナサワギキョウ」(Cardinal flower)は深紅の花で、アキノギンリョウソウの透き通るような白さが一層際立つようです。どちらの花も冬に咲くものではないのに、その色彩が「二月の時間」を象徴しています。

育ったニューイングランドの雪に覆われた白銀の世界とその世界を深紅に染める朝焼けや夕焼けを想像すればいいのでしょうか。まさに「信じられない」(fabulous)冬の時間です。

多くの遺稿が発見され、詩集を出版することになった一八九〇年、トッドは表紙のデザインとしてかつて詩人に贈ったアキノギンリョウソウの絵を選びました。その詩集は、ディキンソンの詩が世界的に読まれる第一歩となったのです。

女性詩人の詩集

数年前、ディキンソンの遺稿のおよそ半分を所蔵しているアマスト大学の図書館を訪ねたとき、十九世紀アメリカの女性詩人たちの出版をテーマにした展示会が館内で開催されていました。ディキンソンの初版詩集もありましたが、そのとき驚いたのは、ディキンソン以外の女性の詩人たちの多くの詩集のサイズや表紙に花をあしらうデザインがほぼ同じということでした。詩集は女性が手にとって読みやすい大きさで、花のデザインはバラやスマイレなど美しくて可憐なものです。当時は詩集や詩というジャンル自体への規範や読者の期待が、男性詩人と女性詩人とは異なっていた、との解説があり、詩集の表紙の花は、当時の女性詩人たちの固定観念化されたイメージを象徴するということでした。ディキンソンのその初版詩集に収められた作品にも、当時の女性詩人の規範に合わせた原稿修正・編集がなされましたが、トッドはできるだけディキンソンの原稿を尊重しようと努力したようです。表紙に少し奇異なアキノギンリョウソウのデザインを選んだことはトッドにとっては精一杯のディキンソンの個性の表現だったのではと思います。

終わりに

ディキンソンとトッド編の詩集は次々と版を重ね、やがて二十世紀の編者たちの手を経て遺稿の全貌が明らかになるにつれて、ディキンソンの評価は女性の詩人という狭い範疇から脱却していきましました。彼女の遺稿が手を加えられることなく、出版されていく「信じられないような」行程は二十一世紀の今も続いています。アキノギンリョウソウという日陰に咲く小さな不思議な花が絡まっていたと考えると感慨深いものがあります。

「言葉はなぜ生まれたのか」の素朴にして壮大な疑問の核心に迫ります。日ごろ気にもとめていないことほど、実は不思議に満ちているものです。「言葉」はその代表例といえるでしょう。

なぜ人間だけが「言葉」を話すのでしょうか。なぜ人間に近いサルではなく、インコや九官鳥が「言葉」を覚えるのでしょうか。ね? 不思議でしょ? 本書の著者である岡ノ谷一夫氏は、鳥類の鳴き声の研究を進める中で、人間の「言葉」によく似た特徴を発見したといいます。氏は本書の中で、

「言葉」はなぜ生まれたのか。ズバリ、本書は、この素朴にして壮大な疑問の核心に迫ります。

①発声学習ができる  
②音と意味が対応する  
③文法がある  
④社会関係の中で使い分けができる

私たちが人間は「言葉」によって物事を分別し、くらべあつて生きています。その先にあるのは、「苦しみ」です。ですが、それと同時に、「言葉」の中であらゆる生きられないものもまた人間です。すべての仏さまは、智慧と慈悲をそなえたお方だといわれます。仏さまのさとり智慧は私たちが「苦しみ」を見抜き、あなただけの時間、人類誕生から約五百万年にわたる「言葉」の謎が明らかになります。ぜひ読んでみてください。

「言葉」はなぜ生まれたのか。ズバリ、本書は、この素朴にして壮大な疑問の核心に迫ります。

「言葉」はなぜ生まれたのか。ズバリ、本書は、この素朴にして壮大な疑問の核心に迫ります。

「言葉」はなぜ生まれたのか。ズバリ、本書は、この素朴にして壮大な疑問の核心に迫ります。

「言葉」はなぜ生まれたのか。ズバリ、本書は、この素朴にして壮大な疑問の核心に迫ります。

「言葉」はなぜ生まれたのか。ズバリ、本書は、この素朴にして壮大な疑問の核心に迫ります。

## シリーズ 智慧の蔵 ⑱

### 『言葉はなぜ生まれたのか』

岡ノ谷一夫 著 文藝春秋 二〇一〇年



## 宗教・文化研究所公開講座(ご案内)

シリーズ：東山から発信する京都の歴史と文化⑳  
テーマ：「天皇讓位」の時代—院政期の政治と文化—

開催日 6月16日(第三土曜日)  
第一部 13:00~14:30  
「朝観行幸にみる天皇と儀礼」  
講師 佛教学部歴史学部准教授 佐古 愛己 氏  
第二部 15:00~16:30  
「仲恭天皇廢位の衝撃—承久の乱と皇位継承—」  
講師 帝京大学文学部講師 佐伯 智広 氏  
場所 B501

## 法のことば

本師曇鸞和尚は

菩提流支のをしへにて

仙経ながくやさすて

浄土にふかく帰せしめき

〔高僧和讃〕曇鸞大師第一首

七高僧の三人目は、中国の曇鸞大師(四七六—五四二)です。南北朝時代、北魏という国で、『大集経』という大部の經典の註釈を志されたのですが、病いを患われます。そこで、不老長生の法を求めて江南の道士陶弘景を訪ね、仙経十巻を授かったのです。しかし、帰路洛陽に立ち寄って、翻訳僧の菩提流支三蔵に会われ、「仏教にも不老長生の法があるか」と尋ねたところ、「たとい長年を得て少時死せざるも、遂には三有の迷いを輪廻せんのみ」と一喝され、苦勞して手に入れた仙経をその場で焼き捨て、浄土の教えに帰依されたのです。長く生きればよいのではなく、仏の覚りの世界に導かれることこそが生きる意味であると思ひ知らされ、その後は天親菩薩の「浄土論」の註釈に没頭され、「浄土論註」を著されます。「親鸞」という名は、この天親・曇鸞両師に依ると考えられています。

(森田 眞円)

(東光 直也)